THE YOUNG MEN'S CHRISTIAN ASSOCIATION NEWS

YMCA 大阪青年

2005 Jul.7 Aug.8

No. 575

月刊 TheYMCA 付録
編集・発行 / 日本YMCA同盟 東京都新宿区本塩町７番地
大阪青年　発行：錦織一郎　編集：大阪YMCA広報室
〒550-0001　大阪市西区土佐堀 1-5-6
TEL06-6441-0894 FAX06-6445-0297
URL:http://www.osakaymca.or.jp/
（年10回発行）1947年10月27日　第３種郵便物認可

２００５年度大阪ＹＭＣＡ年間聖句
「励ましあいなさい。思いを一つにしなさい。平和を保ちなさい。」（コリントの信徒への手紙II　１３章１１節）

大阪ＹＭＣＡの使命

大阪ＹＭＣＡは、聖書に示されたイエス・キリストの愛と奉仕の生き方に学び、ＹＭＣＡの世界的な運動に連なり、希望を持って、共に生きる社会の実現をめざします。

- ●ボランティア精神をはぐくみ、互いに協力し、明るくあたたかい地域社会の形成に努めます。
- ●すべての世代の人びとが、出会いと生きがいを見いだすための、生涯にわたる気づきと学びの活動を展開します。
- ●未来を築く力強い子どもたちを、家庭、地域社会と共に育てます。
- ●生命（いのち）を尊重する心を養い、自然と人間が調和する働きをすすめます。
- ●世界の人びとと力を合わせ、環境、人権、貧困の課題に取り組み平和で公正な世界をめざします。

共に「遊び」「生きる力」を育む

ＹＭＣＡキャンプ

五感を鍛え感性を磨こう

大阪南ＹＭＣＡ副館長　橋本　啓

もうすぐ夏休み！　今も昔も、子どもたちにとっては、わくわくどきどきの夏休みです。思い思いの「遊び」を満喫しようと、こころ待ちにしていることと思います。

大人以上に忙しい毎日を過ごしている子どもたち。キャンプに参加しても、すぐに結果が出ないことに対しては「そんなこと無駄」と消極的であったり、車中でお友達と口ゲンカしたりすると、すぐに携帯電話でお母さんに連絡したり……。「遊び」においても人間関係においても、自ら課題を見つけて解決していく力、いわゆる「生きる力」を育んでいく場が少なくなっているように感じます。幼少年期から青年期は、自己を形成するために多様な能力を獲得する時期です。中でも「遊ぶ」ことによって、子どもたちは様々な能力を自然に身につけていきます。

人にはみんな「遊びたい！」という欲求があります。「遊び」に熱中するなかで、子どもたちは、想像力を発揮し、五感を鍛え、運動能力を駆使し創造的に活動し、感性を磨いていきます。

①他者との関りの中で、刺激や摩擦を感じ人との距離を測ることを学び、小さな失敗を重ねることで耐性を養い、物事の進め方や考え方を身につけます。このように「遊び」は子どもたちにとって、自分の持つ能力を最大限に引き出し、人と一緒に生きていく「体験学習」なのです。

今年も、ＹＭＣＡキャンプでは、無人島へのデイトリップ、マリンスポーツ、ツリーハウス、野外料理、虫とりなどの野外での活動や、食事の配膳、みんなで入るお風呂、荷物整理などの生活体験を通して様々な教育効果を生むプログラムを実施します。またキャンパーは準備されたプログラムを体験するだけでなく、３つの間「時間・空間・仲間」の中で、自ら「遊び」を生み出し、工夫や創造力を膨らませます。そして「遊び」を通して仲間との関係性を深め、共同の体験を通してキャンプというコミュニティーの一員となり、安心して互いに育み、また育まれる存在となっていくのです。

今年の夏もＹＭＣＡキャンプを通して、多くの青少年と共に「遊び」、そして「生きる力」が育まれることを確信しています。

地の塩

▼ある時、電車に乗っていると前の席に幼稚園の子とお母さんが座っていた。夕方だったので子どもは眠そうにしている。横でお母さんがなにやら子どもに語りかけている▼「この問題解けなかったの？」「ウン」「この絵の中から仲間はずれを探すんだよ」「ウン」「どうして間違ったの」「え？」「このカタツムリはチョウチョやトンボとはちがうでしょう！」「エ？」「これは虫ではないでしょう！」「だってママ、デンデン虫っていうじゃん」。まるで落語を聞いているようで、思わず噴き出してしまいそうになった。すると、そのママさんは「カタツムリは貝の仲間なの！昆虫ではないのよ！」。これはお受験のための模擬テストだったのだ▼ある新聞の投書欄にこんなことが書いてあった。「私は娘を創造力豊かな子どもに育てようと絵本をたくさん読んで育てました。一年生になった娘は、学校の先生にその豊かな感性をつぶされています。ある理科の時間に、先生はクラスの皆に『雪が解けたら何になる？』と問いました。その質問に得意げに手を上げて答えた娘は『違います』と否定されてしまいました」と書いてあった。私は興味を持ってその先を読んだ。その先生が意図した解答は『水になる』である。しかし、その子の答えは『春になる』であった▼いずれの例も、子どもの心がとても理解できる。そして独自の答えを出した子どもたちにエールを送りたい。そして「常識」で片付ける大人に警告を発したい▼人はそれぞれ違って当たり前。違うから素晴らしい。そんな発想で教育に関わり、共に育みあうことを願う。

（ＨＮ）